

福島県中小企業家同友会

DOYU FUKUSHIMA

vol.547
10
2025



いま、この人 (いわき支部)

遠藤 貴司さん

(株)かねまん本舗

特集
同友会共育塾

活動報告・専門委員会だより
いま思うこと

福島県中小企業家同友会 **2025年度スローガン**

21世紀型中小企業づくりを進め 真の人間尊重の社会をめざそう

同友会運動の新しいステージに向けて、
人を生かす経営の実践から確立へ

支部ニュース

- 郡山支部 / 第三地区例会
- 福島支部 / 9月例会
- あたら支部 / 8月例会
- 須賀川支部 / 8月例会
- 会津支部 / 9月例会
- 相双支部 / 8月例会
- 白河支部 / 9月例会
- いわき支部 / 9月例会
- 田村支部 / 8月例会
- 喜多方支部 / 8月例会
- 南会津支部 / 8月例会

Check 各支部の活動の様子は
こちらをご覧ください



www.fdoyu.or.jp



工場と直売所を兼ねた広い店内。大型バスも入れる駐車場完備



地域のランドマークとも言える「大黒様と恵比寿様」が店内に

すべては地域の笑顔のために

2025年11月14日に開催される「第49回全県企業家フォーラム」。その実行委員長を務めるのは、いわき支部の遠藤貴司さんです。肩肘張らず、自然体で語るその姿からは、経営者としての誠実さと、地域への深い思いがにじみ出ていました。



皆さん、是非、ご参加ください

全県企業家フォーラムで実行委員長を務めます。大会スローガンは「未来へつなぐ経営者の挑戦〜減少社会のその先へ〜」。少子高齢化による人口減少や地域の過疎化といった社会課題が迫る中で、経営者がいかに備え、未来へとつなげていくかを問いつける内容です。「自分もかつて同友会の活動を通じて多くの刺激を受けてきました。今度は自分がその『場』をつくる番」と

遠藤さん。記念講演や6つの分科会を通じて世代や業種を超えた対話を生み、持続可能な地域になるための学びの機会を目指しています。
地域人としての使命感
フォーラムの準備にあたっては、大会コンセプト作成から内容の企画立案、全県への広報活動など多忙を極めますが、「一人ひとりが希望を持ち、未来を描

けるような時間になりたい」と語る遠藤さんの姿には、経営者としてだけでなく地域人としての強い使命感がにじみます。プライベートでは3人の娘の父であり、休日にはゴルフやソフトボールでリフレッシュ。「スポーツをしていると頭が空っぽになり、新しいアイデアが湧いてくる」と笑う遠藤さんの姿は、仕事と家庭、地域活動をバランスよく両立する現代的な経営者像そのものです。

次代を担う、経営者へ希望をつなぐ

「経営者は孤独だけど、孤独であり続ける必要はない」——その言葉には、同友会活動を通じて得た仲間とのつながりへの感謝が込められています。半世紀にわたり食を通して地域に希望を届けてきた遠藤さん。今度は全県企業家フォーラムという舞台で、次代を担う経営者たちの希望をつなぐ役割を果たそうとしています。

遠藤貴司さん

(株)かねまん本舗 代表取締役社長
えんどう たかし

かまぼこを単なる「食品」ではなく「文化」として発信

創業53年の老舗である(株)かねまん本舗は、1972年に「カネマン鶴屋蒲鉾店」として創業以来、「創作かまぼこ」を主軸に直売スタイルを貫き、多くの人々に親しまれてきました。特徴は、伝統的な紅白かまぼこにとどまらない、多彩な「創作かまぼこ」を展開している点。無添加製法にこだわり約30種類を揃え、焼き色が美しくケーキのような「シーフードケーキ」は特に人気です。地域の食文化を新しい形で発信しています。二代目の遠藤貴司さんは、伝統の技を受け継ぎながらも、時代に合わせた挑戦を続けています。震災後には「食を通じて地

域を元気にしたい」との思いから、店舗を「人が集う場」へと再構築。地元高校生やクリエイターとのコラボレーションを進め、かまぼこを単なる食品ではなく「文化」として発信してきました。

15年越し、「報告者」から「実行委員長」へ

同友会には2003年に入会。最初は例会に一度参加したのみで距離を置いていましたが、2010年、いわきで開催された経営者交流大会において見学分科会を担当したことが転機となりました。報告者として仲間の前で発表した経験が、自身の学びを深め、活動に本格的に向き合うきっかけとなりました。そして今年、遠藤さんは第49回

(株)かねまん本舗

事業内容：蒲鉾製造業
住所：いわき市平下高久字下原 83
TEL：0246-39-3360
FAX：0246-39-3754
設立：1972年
資本金：1,000万円
従業員数：16名
会社URL：https://kaneman.net/



レポート／中国産業(株) 古谷 勝一 (いわき支部)



いまこの人は動画でも配信中!

今すぐCHECK!



【社員共育委員会】 同友会共育塾

「同友会共育塾」とは

社員共育委員会は、社員と経営者が共に学び、共に成長できる環境づくりを目指しています。まさに漢字の通り「共に育つ」共育塾の活動です。その一環として、例年「共育塾」を年に2回開催しています。

今回の特集では、社員共育委員会の活動である「共育塾」の開催目的・昨年度第20回開催の振り返り・参加者の声・今年度第21回第1講座のご案内を紹介します。

- 1 自社の経営理念を見直し、再確認する機会とすること。
- 2 これからの経営戦略や人材育成に関する課題を共有しよう。

第20回開催の振り返り

3 経営幹部としての使命や役割をより明確にすること。
を目的とし、2004年に「社員共育大学」としてスタートしました。第3回からは「同友会共育塾」と名称を改め、今年度21年目を迎えます。

また、「共育塾」の開催は、支部やエリアを越えた県内会員企業の交流につながるだけでなく、経営に密接に関わる経営労働・社員共育・共同求人・障がい者の各委員会とも連携し、その根幹である「人を生かす経営」を主軸とした意見交換の場にもなっています。



前年度の第20回共育塾の第1講座では、白河支部の榎共和建商を訪問し、代表取締役社長・増子国安さんと幹部社員4名からご報告をいただきました。テーマは「社員の主体性と会社の成長」。

増子社長は「社員の成長こそが会社の成長につながる」という考えのもと、社員が主体的に学び・行動できる仕組みづくりを進めています。部門ごとの分断をなくし部門連携のためにミーティングを行うなど、具体的な取り組みを報告いただきました。

続く幹部社員の皆さんからは、それぞれの立場から会社の強みや課題を率直に語ってくださいました。参加者にとっても、自社の社員との向き合い方や組織づくりを考える上で、大きな刺激となる講座となりました。

続く第2講座では、郡山支部の(有)えん家を訪問し、代表取締役社長・遠藤浩輔さんと幹部社員3名からご



社員共育委員長の挨拶



県社員共育委員長
渋谷 裕司さん
渋谷レックス㈱

社員共育委員会では、「人を生かす経営」を意識した社員共育活動を推進し、学びの場づくりに取り組んでいます。その中でも共育塾は、経営者・幹部社員それぞれの視点から課題や会社への想いを直接聞ける、貴重な機会です。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



報告をいただきました。テーマは「理念経営で、社長が変わり、社員が変わる」社員の主体性が会社の成長へ」。遠藤社長は、会社の軸となる経営指針を策定し、それを社員

と共有することで、組織として目指す方向性を明確にされています。幹部社員の皆さんからは「指針書があることで迷ったときに立ち戻る軸となっている」といった具体的なお話がありました。

参加者からの声

◆社員のみなさんの生き生きとした働きを拝見して、とても活力があって魅力的に感じました。社員と共に成長できる仕組みづくりを一緒に考えて実践します。

◆自分の立場、他の立場から見ての会社や社員の人たちへの在り方、気づきを多く得られました。立場や経験



の違いで言葉が難しいと表面上はあっても本質は一緒。伝え合うコミュニケーションこそが一番大切なのだと思います。

◆こんなに近くにこんなに素晴らしい会社がある事に驚きました。

◆感動と共感と決意がうまれました!!まず、自分の会社を勉強の場にされる気持ちと決意、自分には考えられませんが、本当にありがとうございます。会社のメンバーも来てくれたので、生の社長のお話を聞

くことができ本当に良かったです。

◆毎年更新する指針書を基に、社員に任せているとの社長のお話でしたが、幹部の皆さんも口々に「指針書があるから判断に迷わない」とお話しされており、幹部も同じように現場に任せる風土になっており「やっついい」という心の環境が生まれていました。

◆社長のぶれない信念、社員への仕事の任せ方、社員一人ひとりの目標を設定するにあたって、落とし所を考えるなど学びになりました。

今年度(第1講座)のご案内

10/28(火)
11:00~



e-doyuの回答はこちらから!!



を直接聞けることは、参加者にとって大変貴重な学びとなるでしょう。経営者にとっては自社の経営や組織づくりを見直すきっかけに、幹部社員にとっては自らの役割や働き方を考える刺激になるはず。

経営者と幹部がご一緒に参加いただくことで、講座での学びを社内に持ち帰りやすくなるため、ぜひ出席を推奨いたします。社員の存在が会社や地域にどう影響を与えるのかを考える良い時間として、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

今年度第1講座は、会津ICすぐそばに会社を構える、(株)金堀重機 代表取締役 春田一真さんと幹部社員の方々にご報告いただきます。

(株)金堀重機は1955年の創業以来、地域とともに歩み続け、今年度で70年を迎える建設業(クレーン、生コン圧送)の会社です。長い年月の中で培われた技術や信頼を大切にしながら、時代の変化に応じた新たな挑戦にも取り組んでこられました。

今回のテーマは【「金堀ファミリー」が地域と会社の価値を高める】です。社員を「ファミリー」と捉え、共に学び合い、地域社会と共生する姿勢をどう実践しているのか。また、経営者と幹部社員が、会社の未来をどのように描いているのかを具体的に伺える機会となります。単なる経営理念の発表ではなく、実際の現場で培われてきた生きた事例や社員の声を通じて、その真髓に触れられるのが大きな魅力です。

今回の第1講座も訪問形式で企業見学を行います。実際の職場環境を肌で感じ、現場で働く幹部社員の生の想いや工夫

県女性委員会・青年委員会 合同8月例会

「やらなきゃ会社が止まる!!」プレイングマネージャーの現状と脱却、
●報告者：世原広美さん (旬) Rアドバンス代表取締役(いわき支部)
遠藤秀輔さん (樹)ライフ保険サービス代表取締役(郡山支部)

8月29日(金)、郡山市ビッグアイ市民交流プラザにて、県女性委員会と県青年委員会の合同例会が開催されました。今回のテーマは「プレイングマネージャー」。現場で業務を担う「プレイヤー」と、管理を行う「マネージャー」の両方を兼ねる立場を指します。迅速な意思決定や現場の意見を即時に反映できる一方、業務負担が増え、どちらかがおろそかになるリスクもあるという難しい役割です。例会では、この役割を実際に経験したお二人から体験報告をいただきました。

世原さんは、カフェやネイルサロンなど多店舗経営を行っていた際、現場にも自ら対応しなければならず、心身ともに疲弊した時期があったそうです。そのとき、同友会の先輩から「現場を放り出すのではなく、現場を支える仕組みを作ることが大切」との助言を受けました。以来、自分がいなくても売上が落ちないチームづくり「社員共育」を掲げ、体制づくりに取り組んでいるとのことでした。



世原広美さん(左)、遠藤秀輔さん(右)

継承しました。当初は順調でしたが、やがて社員との間に軋轢が生じ、昨年2月には社員が全員退職。自らが現場を駆け回る日々を送ったそうです。転機となったのは、同友会全国会合での記念講演「社員共育」の重要性を学び、社内で意見交換やグループ討論を取り入れたところ、社員が自発的に動く企業づくりに方向転換できたと言っていました。

第28回女性経営者全国交流会(東京)
「東京GRADATION 咲き誇れ、じぶん色、みんな色」

9月4〜5日、全国から1,105名が参加し、東京で開催されました。福島同友会からは女性・男性ともに9名の合計18名が参加しました。
報告者・座長・グループ長
すべて女性が担当!

初日は11の分科会に分かれてのスタートです。経営指針に基づいた経営実践、人を生かす経営、市場創造、社員との関わり合い、事業承継など、幅広いテーマでの学び合いが行われました。

今回の交流会は、報告者だけでなく、座長やグループ長まで全て女性が担うという女性が前面に出る運営のもと、それぞれのテーブルで熱心な議論が繰り広げられました。

懇親会では、東京オールディースナイトと題したTokyo Funky Dollsによるパフォーマンスが繰り広げられ、大いに盛り上がりました。

記念講演「この会社が好きだから愛と行動で未来を創るリーダーシップ」

2日目の全体会では、全ての分科会から学び合いの成果についての報告がありました。限られた時間の中でも、それぞれの



全国から総勢1105名(女性6割・男性4割)が集い、学び合いました

常任理事会
報告

(9月2日・アサヒビル福島本店)

■審議事項

- 議題1. 創立50周年事業実行員長選出の審議
- 1. 齋藤記子会長より、創立50周年事業実行委員長に香西良浩副代表理事を選出したい旨の提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題2. 年誌PAGE7号収支の審議
- 1. 鈴木成保購買事業委員長より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題3. 環境委員会公開セミナー開催の審議
- 1. 大内政雄環境委員長より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題4. 情報管理委員会公開セミナー開催の審議
- 1. 鈴木成保購買事業委員長より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題5. 第32回報道各社との懇談会開催の審議
- 1. 佐藤光一広報報道委員長より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題6. 第21回共育塾第1講座開催の審議
- 1. 佐戸川政美代表理事より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題7. 県中東南エリア社員共育リーダー研修開催の審議
- 1. 佐戸川政美代表理事より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題8. 県中東南エリア障がい者移動例会開催の審議
- 1. 柳田佳子障がい者委員長・鈴木英一郎県中東南障がい者委員長より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題9. 全会員への「景況調査アンケート」実施の審議
- 1. 井上祿也政策提言委員長より、提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題10. 外部団体からの依頼
- 1. 佐藤智明常務理事事務局長より、ふくしま合同就職面接会&業界説明会・ロボット航空宇宙フェスタふくしま2025の名義後援の提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題11. 次回常任理事会
- 11月4日15:00
- 協議事項・創立50周年式典・記念事業について
- 依頼事項・第49回全県企業家フォーラムの参加依頼
- 出席者／齋藤記子、藤原真一、佐戸川政美、曾根佳弘、渡辺啓治、平石秀樹、香西良浩、鈴木信雅、高崎文孝、芳賀浩、三津間謙一、酒井源喜、佐藤有史、小幡広宣、増子国安、丹野勇雄、荒川健吉、渡部一、樋口静克、柳田佳子、五十嵐隆男、大内政雄、真部正美、鈴木成保、井上祿也、佐藤光一、鈴木隆将、鈴木恵、佐藤智明、遠藤貴司、鈴木英一郎、31名。

消費期限改ざん問題



㈱FMフナハン 代表取締役 舟橋 康介さん (相双支部)

ミニストップで発覚した消費期限改ざん問題は、単なる現場のモラル欠如ではなく、食品廃棄ロスとフランチャイズ構造の矛盾が背景にある。コンビニ業界では年間60万トン以上の食品

ついでこの間まで夏の暑さにごんざりしていましたが、今朝の気温はなんと11℃。急に秋めいてきました。養蜂場の巣箱の中には「仲秋の百花蜜」が集まりはじめ、秋の販売もスタートして毎日バタバタと忙しい季節を迎えています。



(株)渡辺養蜂場 代表取締役 渡邊 弘一さん (あだたら支部)

稲刈りの季節に考えること

廃棄が発生し、その大半を加盟店が負担している。特に消費期限の短い弁当や惣菜は廃棄リスクが高く、オーナーにとっては利益を直撃する。結果として「まだ食べられるのに捨てるのはもったいない」という心理が働き、期限ラベルの改ざんという不正へとつながった。



趣味や事業紹介、仕事のこだわりなど、自由なテーマで執筆いただいています。

ここ二本松の小浜地区は、例年10月から稲刈りが本格化しますが、今年は早いところでは稲刈りが始まり、気ぜわしい9月後半を迎えています。今年の稲は背丈も高く、ところどころ「なびいて」きていますが、幸いにも台風が逸れ、なんとか倒れずにいてくれます。

一方で、国や企業は食品ロス削減を掲げながらも、厳格な消費期限ルールを維持し、廃棄コストを加盟店に押し付けている。この構造が「安全を守るか、利益を守るか」という板挟みを生み、不正を誘発する温床となった。食品安全を損なわずロスを減らすには、発注精度の高度化や時間帯別の割引販売、廃棄コストの本部・加盟店のリスクシェア、さらにフードバンク等への寄付制度が不可欠である。



今回の問題は、食品ロス削減という正しい目的が現場にとって「偽装の動機」に変質した象徴的事例であり、業界全体に制度改革を迫るものである。

はじめた頃の面積は4反。30kg一袋が、当時ぶっちゃけ¥5,700。耕耘や稲刈りなどは、近所の人に委託だったので手間代や機械代で手元には全く残りませんでした。あれから5〜6年たち今年には1町2反。離農する人が増え、いつの間にか委託される側になってしまいました。昨年の価格は30kg一袋¥10,000。この1年は「米価高騰」「備蓄米」「古白米」と米価に関するニュースが世間を賑わせていますが、今年はいくらになるのやら。消費者とすれば、た

とえ1円でも高いというでしょう。でも、本当にお米は高いですか?物価の優等生などと言われる卵や、もやしと同じにみてもいいませんか?どの作物でも生産・維持のため、コストが上がれば価格に乘せなければなりません。だからといって一時期、某ホームセンターで新潟県産米が¥29,800で売られていたのは、作る側からみてもやりすぎです。適正価格って、実際のところいくらなんだろう?そんなことを考えながら現場に向かって軽トラで疾走している毎日です。

未来へつなぐ 経営者の挑戦

～減少社会のその先へ～

第49回 2025 浜エリア/いわき 全県企業家フォーラム

主催/福島県中小企業家同友会 主管/福島県中小企業家同友会 浜エリア

ごあいさつ

第49回全県企業家フォーラムが8年ぶりに浜エリア・いわき市で開催されます。大会スローガンは「未来へつなぐ」経営者の挑戦～減少社会のその先へ～です。少子高齢化や人口減少、地域の過疎化など、「縮小社会」が前提となった今、どのように地域と企業が共生していくかが重要な課題となっています。今回のフォーラムでは、その課題に前向きに取り組む、新しい時代にふさわしいビジネスモデルを共に考え、未来に向けた希望のヒントを得られればと思います。

記念講演では、ジャーナリスト三神万里子氏から「地域経済活性化と人口減少下のビジネスモデル」をテーマに、マクロとミクロ、グローバルとローカルを横断する先進事例をわかりやすくご紹介いただきます。新しい時代の可能性を共に考えていく講演となっています。

6つの分科会では経営指針の明確化や社員共育、自治体との連携、環境経営やスポーツを通じた地域振興など様々な観点の学びをご用意しております。共に学び、同じ時間を共有して新しい時代の可能性を共に考えましょう。

今フォーラムに参加された方にとって有意義な学びと交流、そして素敵な時間を提供できるよう、浜エリア・実行委員一同、心を込めて準備しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第49回 全県企業家フォーラム 実行委員長 遠藤 貴司

開催日 2025年11月14日(金) 13:00～20:00

会場 パレスいわき いわき市鹿島町久保梅田4-1

会費 10,000円

第一次締切

第二次締切

申込締切

10月15日(水)

10月24日(金)

同友会三つの目的

1. 会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強靱な経営体質をつくろう。
1. 相互に人格を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけよう。
1. 中小企業をとりまく経済環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させよう。

新|会|員|情|報|

- ①会社名 ②役職 ③住所 ④電話番号
⑤事業内容 ⑥紹介者

入会おめでとうございます!
皆様よろしくお願ひします

福島支部
大野 泰明さん

- ①永京寺
- ②代表社員
- ③福島市鳥谷野字館32
- ④024-546-5519
- ⑤葬儀や法要等の宗教行事
- ⑥安部守さん

福島支部
藤本 菜月さん

- ①(一社)tenten
- ②代表理事
- ③福島市大町2-18
- ④024-529-5895
- ⑤移住者の定住支援・女性活躍
- ⑥斎藤美幸さん

田村支部
佐久間直樹さん

- ①有限会社サワケン住宅
- ②代表取締役
- ③田村郡三春町富沢字 榎梨池頭66番地
- ④0247-62-3175
- ⑤新築リフォームの建築業
- ⑥久保田齊さん

田村支部
桑原 直人さん

- ①フォレストクリエイティブ合同会社
- ③田村市船引町永谷字 山中12
- ④0247-61-7180
- ⑤林業
- ⑥押田洋平さん

いわき支部
井戸川 修さん

- ①(株)IDK
- ②代表取締役
- ③いわき市平下神谷字 岸前110番地3
- ④090-1936-9903
- ⑤一般電気工事、家庭電気、空調設備、電気通信
- ⑥横田直也さん

郡山支部
宗像 康弘さん

- ①(株)ENOGU
- ②代表取締役
- ③郡山市桑野3-18-20 西郡山ビル201
- ④024-983-6909
- ⑤ブランディングを中心とした広告
- ⑥蜂谷雅俊さん

郡山支部
西間木聖生さん

- ①積水ハウス(株)福島支店
- ②郡山市本町1-4-8
- ③024-933-8055
- ④ハウスメーカー
- ⑤遠藤秀輔さん

白河支部
渡辺 道直さん

- ①(株)渡辺建築設計事務所
- ②代表取締役
- ③福島県白河市新白河2-61
- ④0248-22-7811
- ⑤建築設計・監理
- ⑥安部和幸さん

喜多方支部
阿部 潤さん

- ①人文知
- ②代表
- ③福島県喜多方市字三丁目4810
- ④090-4041-6105
- ⑤ワインバー
- ⑥津田栄光さん

相双支部
高田 将大さん

- ①(株)鹿島クレーン
- ②代表取締役
- ③南相馬市鹿島区鹿島字北田170-1
- ④0244-46-4084
- ⑤クレーンリース業、一般貨物自動車運送業
- ⑥小幡広宣さん

いわき支部【名義変更】
早島 香蓮さん

- ①(株)導引医学研究所
- ②取締役
- ③いわき市泉町下川字萱手79-2
- ④0246-56-1444
- ⑤健康法指導教室経営

福島同友会会員数(9月末現在)
1,836名

郡山 455名

福島 380名

あだたら 51名

須賀川 39名

会津 231名

相双 75名

白河 152名

いわき 347名

田村 59名

喜多方 30名

南会津 17名

DOYU FUKUSHIMA

2025年10月号 vol.547

福島県中小企業家同友会

〒963-8005 郡山市清水台1丁目3-8 郡山商工会議所会館5F
本部事務局 / TEL.024-934-3190 FAX.024-934-3089
発行責任者/会長 齋藤 記子
編集責任者/広報報道委員会委員長 佐藤 光一
定価/200円
HP:www.fdoyu.or.jp E-mail:fdoyu@fdoyu.or.jp
e.doyu:https://fukushima.e-doyu.jp



行事の確認は
e.doyuから!!



事務局通信

今年から始めたブラックバスの釣りにどっぷりハマり、ほぼ毎週末川や池やダムなどに出かけています。主にワームやルアーといった疑似餌を用いて釣るのですが、話によるとバスは知性の高い魚のようで、それらしい形だからといって簡単に釣れてくれる魚ではないと感じます。違和感を持ったら一度口に入れたものも吐きだしたり。また、その釣り場によって特性が異なるので「あっちの釣り場でこの疑似餌が釣れたからこっちでも釣れる」といった単純なものではないのだと痛感しております。だからこそ、形・動き・おもりの大きさ・仕掛けなど様々工夫し、「どうしたら釣れるのかな?」と試行錯誤しながら釣るのが楽しく感じています。

仕事も同じようで、一辺倒な方法だけでなく、適材適所のやり方を工夫しながら考え、自分なりにおもしろさを見つけて良い結果を釣り上げていきたいと思ひます。

(R.M)